

千葉市 手をつなぐ育成会だより

第 162 号

令和 2 年(2020) 3 月19日

千葉市手をつなぐ育成会

会 長 成 田 智 子

千葉市稲毛区作草部2-4-5

でい・さくさべ 2 階

TEL・FAX 043-206-4050

✉ chiba-chibahands@dance.ocn.ne.jp

ゆうあいピック 5/14

育成会啓発活動 7/6

「知的障害児者の性について」研修会 7/5

会員親睦会 10/5

クリスマス会 12/8

2020千葉市大会本人会予行練習 8/31

2019年度 育成会の主な活動

会場には1教室に親子4組、1組に1m位の高さの段ボールで仕切られた1畳半位のスペースがあり、エアーマットが敷かれ、アルミブランケットが用意されていました。思っていたより広いスペースでした。訓練なのでたくさんのお客様が受付け、イラストのボードを使って一日の流れの説明、血圧の測定、昼食を用意してくれました。その合間にいろいろと話しかけて下さり、娘は歌ったり踊ったりしていました。

以前は避難所には高いハードルを感じ、不安なままの参加でしたが、今回の経験で避難所へ行くことへの私の心のハードルが少し低くなりました。実際の災害時は水道も電気も止まり、スムーズにはいかないとは思いますが、日頃から備えておこうと思うものも増えました。参加して良かったと思います。ありがとうございました。

(広報部 竹村)

「梶川さんの家は植草学園に近いから参加してみない？」と数年前から何度かお誘いを受け



いつもと違う場所で過ごすことも経験

ていまして「何もしないで待つ」事を一番の苦手とする娘の避難訓練への参加は難しいとお断りしていました。理事会で「ヘルパーさんも一緒に参加して良い」と聞き、避難所での生活を具体的にイメージして備えるためにも思い切つて参加してみようと思ひ、娘の好きなカルタ数種類と絵を書くための筆記用具を持って参加しました。

朝、普段通りの時間に家を出てヘルパーさんと待ち合わせて少し歩いて気持ちを整えてから訓練に参加しました。心配していた昼食も普段は嫌いで口にしないレトルトカレーをあつという間に完食し、ヘルパーさんや学生さんと校内を散歩したりカルタをして、終了時間まで落ち着いて参加できました。親子で貴重な経験となりました。

(理事 梶川)

みんなで共に
クリスマス会
12/8
療育センターにて

盛大な千葉市手をつなぐ育成会のクリスマス会に今回も参加できました。担当スタッフは、1年位前から準備に取り掛かっているとのこと、本当にご苦労様でした。

千葉市自閉症協会でも同じ場所で行ったクリスマス会でしたが、その規模の違いにビックリしました。来賓席があり、行政関係者や諸先生に会えることもいいですね。

一番の楽しみは「パン食い競争」ですね。それぞれの食い付き方が愉快でした。

「のんびり山オーケストラ」の演奏も欠かせぬ存在で最高に盛り上げてくれましたね。

数年前から父親も「のんびり山オーケストラ」のスタッフとなり、雰囲気共有しています。

(会員 阿部)

エネルギッシュな千葉大チアリーディング「Lips」、よさこいソーラン「チーム☆利刃蔵」のダンスに、こちらも汗をかく思いで楽しみました。

事務局は新体制に

2月28日、杉山三和子事務長が退職されました。

長い間、本当にありがとうございました。

▼杉山三和子事務長のお話

正副会長、理事の皆さま方に大変お世話になりましたこと感謝申し上げます。7年8ヶ月の間、色々な事がありました。総会資料の落丁が総会間際に分かり、冷や汗をかい事、記憶に残っております。

私の後任は保土田さんに引継ぎますのでよろしくお願い致します。

昨年9月から事務員に中台幹子さん(左)が、今年2月から事務長に保土田朝子さん(右)が引き継いでいます。どうぞよろしくお願いいたします。

育成会のうごき 11月～2月

11月6日 「障害児・者と共に生きる家族への支援について考える」研修会 [本誌P.2]

9日 県立千葉特別支援学校もくせい祭 お茶販売

10日 第9回ふれあいコンサート

14日 千葉市バリアフリー基本構想推進協議会

14・18・21・25日 まち歩き点検ワークショップ [本誌P.3]

15・18日 せいかつ委員会企画 話そう会

21日 第45回千葉市特別支援教育振興大会

27日 千葉市における成年後見制度利用促進に係わる地域連結ネットワーク協議会

12月2・4・13・16日 各区おしゃべり会

7日 第21回千葉市障害者福祉大会

8日 クリスマス会 [本誌P.4]

10日 第28回さわやか芸能発表会

24日 千葉市障害者施策推進協議会

1月20日 まんま隊講演会

24日 緑区ボランティア団体交流会

26日 第16回自立支援セミナー

29日 緑区役所庁舎消防訓練

2月6日 千葉市障害者社会参加推進協議会

10日 千葉市バリアフリー基本構想推進協議会

12日 全国手をつなぐ育成会連合会総会

14日 関東甲信越ブロック代表者会議

「家族支援を考える」 健全に子育てを終えることとは…



玉井 邦夫氏

昨年11月6日(水)でい・さくさべにて、大正大学教授の玉井邦夫氏を講師にお迎えして、研修会を行いました。

《家族支援の流れ》

「私よりこの子と上手に付き合える他人がいる」「この子には、私より大切な人がいる」…保護者にとって、これは厳しい言葉ですが、家族支援の立場からは、保護者がこの受入れを経て、健全に子育てを終える、というところを目指していくのだそうです。次々と起こる困難に対処できるのはもう親では無く、成長し変化した家族関係の中にも無いとなった時、初めて子どもを手離せるようになるとの事です。

《障害受容・子ども受容》

障害の告知により、描いていた親子の夢や未来を「喪失」してしまったと絶望した保護者にとって、我が子は「障害のある普通の子」であるという気づきを得て、その視点に立てるようになる事が大切です。適切な生活に負荷をかけ、それを乗り越えていくのが成長ですが、歪んだ受容によって健全では

ない対応とならないように、理想としていた子育てとは違っても、その子なりの具体的な「うまくいく方法」で実現出来ることを設定し、経験を蓄積させていく事や、一方で気持ちを話し、周りの人と共有し合う機会を提供していく事が受容につながっていきます。

《成人期の支援》

成人期に留意が必要なのが環境や周囲の人との関係性です。学校を卒業するまでの保護的・限定的な関係性から、いろいろな立場の人が関わってくるようになります。本人に断りなしにこの変化が起きると、大変な適応障害が起きる場合があるそうです。変化を乗り越える力になるのは、人との関りを質的・量的に充実させていく事。仕事や日々の生活、学びや余暇といったものがバランスよく提供される事が大切です。そして、自分を理解し、「何をどう手伝ってもらえばいいか言える」スキルが身につけば、大体の問題はクリアできるだろうとの事です。

私達の子どもは、人や社会にイマジネーションを与える存在なのだと思います。地域に出て普通の暮らしをする事で、子ども達を知ってもらい、サポーターを増やしていただくことの事でした。(研修部 石橋)

第53回手をつなぐ育成会

関東甲信越大会

埼玉大会

11.9 埼玉会館

第1分科会「これからの育成会」 ネット社会の今だから人と人とのつながりを大切にしたい」

基調講演として全国手をつなぐ育成会連合会会長の久保厚子氏よりお話がありました。インターネットの普及によって、情報は溢れ、その結果、組織所属の依存性が薄れています。

人生は実社会の経験が基本です。ネット社会では埋められない「心」があります。今ある制度だけで障害のある我が子の願いや希望を実現できますか。出会いやつながりが人生の財産となります。

育成会は時代の流れの中で実績をなしてきました。しかしこれまでのやり方やあり方を続けようとする傾向にあり、結果として現状とのギャップが生じてきています。このことは各界の組織にも言えることです。

育成会のあり方も見直す必要があります。新たなアイデアで対応できる柔軟な体制を築いていきましょう。

この講演を受けて、各地域からの活動報告では、理解啓発活動や一人親と高齢化したご本人との暮らしを見守る

活動。ご本人の「延命治療の項目」を付加したあんしんノートについて。診断後間もないお母さんたちを支える活動が紹介されました。(理事 藤芳)

第2分科会「権利擁護を考える」 「やまゆり園で散った命から」 それでも減らない虐待・差別を どう乗り越えるか

野澤和弘氏(毎日新聞論説委員)が、相模原事件の問題点を挙げられました。【施設の防犯対策は充分だったか】施設や監視カメラ、扉では内部の犯行は防げない。人権教育の研修や法人のガバナンスはどうだったか。

【精神医療について】人格障害は治るものではない。退院後の受け皿がなく、厄介者の行き場所は病院か刑務所へ。【匿名とメディア】実名報道されなかったのは家族のプライバシー？本人の人権は？

【施設は被害者なのか】元職員が起こした事件、法人の体質や監督責任は問われないのか。

【優生思想】植松被告の障害者に対する偏った価値観。

また、村山園氏(千葉県手をつなぐ育成会・権利擁護委員長)は、やまゆり園側も単なる被害者ではない。加害者としての反省が必要。福祉関係者にも、障害のある人への差別感情があることを改めて思った。この事件は今の社会を映す鏡。どんな障害があってもかけがえのない命を輝かせるために、

話そう会が我が子の思いを実現するきっかけに

せいかつ委員会では、昨年11月に2会場にて、親なきあとの様々な暮らしの中から「一人暮らし・グループホームでの暮らし」等についての話そう会を開きました。

◇でい・さくさべにて、橋本諭氏(柏市・(社福)彩会 相談支援センターいろどり管理者)からは、主に親なき後や親亡き後を見越しての事例(生い立ち、家族関係、居住形態、生活の様子、相談支援に至る経緯、本人の意思確認、利用している支援等)を数多く紹介いただいた後、グループホーム利用の場合や生活支援員や世話人の仕事の話もしていただきました。

◇緑保険センターにて、染谷英樹氏(「社福」千葉市手をつなぐ育成会 地域生活支援センターふらる副センター

告知

第54回 手をつなぐ育成会関東甲信越大会 千葉市大会

～ 本人と制度と人、そして社会をつなぐ ～

2020年 10/24(土)

育成会大会: 東京ベイ幕張ホール (アパホテル&リゾート東京ベイ幕張)

本 人 会: 千葉モナレール・航空科学博物館

主 催: 千葉市手をつなぐ育成会 / 関東甲信越ブロック育成会連絡協議会

後 援: 千葉市 / 千葉市社会福祉協議会 / 千葉市身体障害者連合会 / 全国手をつなぐ育成会連合会 / 千葉県手をつなぐ育成会

みなさん ご参加ください!

第3分科会 「共に生きるを実現するために」

全国手をつなぐ育成会連合会政策委員の又村あい氏による、「共生社会で生きることを支えるもの」についてのお話がありました。

共生社会とは、障害のある人もない人も、お互いのことを理解・尊重して、イヤな思いをせずに気持ちよく暮らすことができる地域の実現を目指す社会のことで、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながり、生活上の課題を我が事として受け止め、丸ごとの支援を展開していくことです。

共生社会を支えるための「障害者総合支援法」の福祉サービスは、国事業の①介護給付、②訓練等給付、各地域で異なる自由度の高い事業展開の③地域生活支援事業の三種類に分類されます。

育成会の活動は、③の中の自発的活動支援事業の社会活動支援にあたります。共生社会の実現にむけて育成会ができることは、障害理解の推進として啓発隊の派遣や、異なる障害特性への理解(人と人とのお付き合いをより豊かなものにするために、お相手のことを少しでも知ろうとする姿勢)、歴史のある障害者団体として有している先行ノウハウを地域に還元していくことです。(副会長 土戸)

みんなの街を もっと使いやすく

千葉市では昨年より、高齢者、障害者等の移動や施設利用の利便性及び安全性向上を促進するため、千葉市バリアフリー基本構想が、令和2年度末に目標年次を迎えるにあたり改定する事を目指しています。千葉市手をつなぐ育成会は委員として出席しています。

昨年11月にはまち歩き点検ワークショップが実施され、○千葉駅周辺○都賀、千城台駅周辺○千葉都心、鎌取周辺○海浜幕張駅、幕張駅周辺を班ごとに、複数の障害者団体、学識経験者、行政、学生等の方々と経路、施設等のバリアフリー状況の現地確認、意見交換を行いました。(副会長 大里)



街を歩き課題点を探索